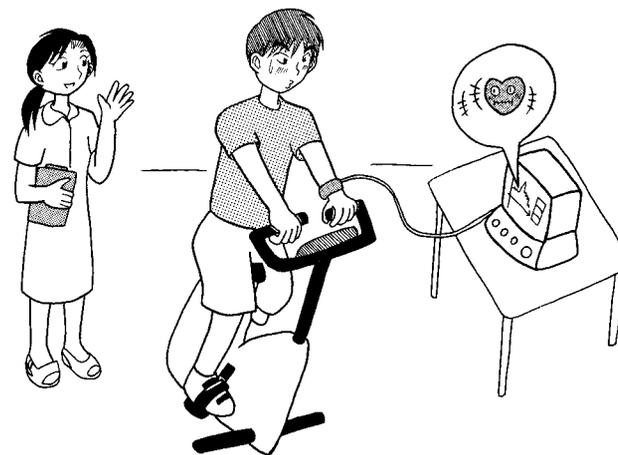


運動負荷中及び終了後の中心血圧測定による 心血管リスク評価の有効性の検討

研究代表者 大阪教育大学 宮井 信行

運動負荷試験における中心血圧測定から得られるパラメータが心血管リスクの評価に有用であるかを検討するために、脳、心血管疾患などの治療歴のない成人男性を対象として自転車エルゴメーターによる多段階漸増運動負荷試験を行いました。負荷試験中は、撓骨動脈血圧波形をトノメトリー法で記録し、この波形を大動脈起始部血圧波形に変換して中心血圧を求め、撓骨動脈と大動脈の脈圧比 amplification を脈波における反射指数として用いました。対象者を正常血圧群、高血圧群、多重リスク群（高血圧+脂質代謝異常かつ/または耐糖能異常）に分けて比較したところ、高血圧群と多重リスク群の amplification は負荷試験中に正常血圧群に比べて有意に低値を示し、高血圧群と多重リスク群の比較では、負荷後において多重リスク群が有意に低値でした。負荷後の amplification を従属変数とした重回帰分析では、年齢、高血圧を含む多重リスクの有無が独立の決定因子でした。また、負荷後の amplification と左室心筋重量係数との間にも有意な相関関係が認められました。以上から、運動負荷試験中に撓骨トノメトリー法で測定した中心血圧のパラメータは、高血圧を含む脂質代謝異常や耐糖能異常の集積の有無、あるいは左室肥大の程度と関連し、心血

管リスクの評価に有用であることが示されました。



運動負荷試験中に撓骨トノメトリー法で測定した中心血圧のパラメータは、心血管リスクの評価に有用である。

